
月村と神凧と夜の一族と 前編

十字架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月村と神風と夜の一族と 前編

【コード】

N2801Q

【作者名】

十字架

【あらすじ】

とある学生と夜の一族の少女の物語・・・

(前書き)

処女作です・・・

す 「アリサちゃん」

ア 「ん、おはようですか」

なのは、フェイト、はやてがミッドに行ってからしばらくして聖祥大付属に進学したすずかとアリサ

今日も仲良く二人で登校している途中・・・

す 「ねえアリサちゃん」

ア 「どうしたの？すずか」

す 「今日翡翠屋行かない？」

ア 「別にいいけど・・・ってか最近毎日行ってるわよ？何かあった？」

す 「べ、別にそんなことないけど・・・ただ・・・」

ア 「ただ？」

す 「その・・・えっと・・・あっと・・・んーと」

ア 「もうー！はっきり言いなさいよ、何？好きな人でも出来た？」

す 「そっそんなことないよ？別にいつも窓際の席に座ってる人が
気にな

ってるわけじゃないよ?!」

ア 「あんた、自爆してどうすんのよ・・・」

す 「はう！言ってしまった／＼」

ア 「まあいいわ、で？その窓際に座ってる人が気になって最近毎日行つ

てると？」

す 「うん／＼なんかね、その人見てると・・・その・・・あの・・・え
つと・・・」

ア 「だからはっきりしなさいって！」

す 「うん・・・そのね、見るだけで心臓がドキドキしてなんだか緊張しちゃって、うまく言えないけど・・・私・・・その人のこと・・・好きになっちゃったかも／＼」

ア 「はあ・・・それで妙に落ち着かなかった訳か、それであたしに言うくらいなんだからそろそろアタックするんでしょ？」

す 「うん・・・そうしたいけど・・・」

ア 「けど？」

す 「名前すら知らないんだよね・・・」

ア 「ちよつと待ちなさい！って事はあんた一目惚れしたのはいいけどそこから何も出来てないわけ?!」

す 「うん・・・だからどうしようかアリサちゃんに相談しよう
思って・・・」

ア 「なるほどね、その人っていつも翡翠屋にいるのよね？」

す 「たぶん・・・」

ア 「なら土郎さんとか桃子さんなら名前知ってるんじゃない？」

す 「！そうか！その手があったよ！アリサちゃん！！」

ア 「全く、これくらい直ぐに気付きなさいよ・・・」

す 「だって・・・」

ア 「まあいいわ、今日の放課後翡翠屋に行って聞きましょう」

す 「うん／＼／そうする／＼／」

そして放課後・・・

ア 「すずかー行くわよー」

す 「うん、行くこうアリサちゃん」

ア 「もし桃子さん達が知らなかったらどうする？」

す 「うん／＼／その時は話しかけようと思っ／＼／」

ア 「だ、大胆に行くのね・・・」

す 「うん！今日の私は強いよ！！」

ア 「（も・・・燃えてる・・・あの内気なすずかが燃えてわ・・・）」

す 「ん？どうしたの？アリサちゃん」

ア 「いえ、何でもないわ、まあ頑張りなさい！応援してるから！」

す 「ありがとう！アリサちゃん！！」

そんな話をしながら翡翠屋に到着したアリサとすずかであった

ア 「こんにちわー」

す 「こんにちわ、土郎さん、桃子さん」

士 「やあ、いらっしやい、アリサちゃんにすずかちゃん、最近よく来るね」

桃 「いらっしやい、そういえばそうねえ」

ア 「そうなんですよ・・・実はすずかがまだ・・・」

す 「わーーーー！！アリサちゃん！！！！！！！！！！」

ア 「はいはい、わかったわよ」

士 「ふむ……すずかちゃんに悩みごとかな？」

桃 「ふふっ、みたいですね、すずかちゃん良かったら話してくださいかしら？」

す 「うう／＼／」

ア 「ほら、恥ずかしくてちゃ進まないわよ」

す 「うん／＼／その……実は……」

今朝アリサに話した内容を二人に伝えると……

桃 「なるほどね、それで最近よく来てたのね」

ア 「それで、彼のこと知ってます？」

士 「もちろん知ってるさ、なんせ彼はよく来るからね」

す 「その／＼／名前とか教えてもらえないでしょうか？／＼／」

士 「ふむ……」

す 「あの……駄目……ですか？」

士 「いや、駄目ではないが、それなら彼を呼ぼうか？」

桃 「それは良い案ね！さっそく呼びましょう」

す 「ちょ、士郎さん！桃子さん！いきなり呼ばれても何を話せばいいか……」

士 「問題ないさ、彼は良い子だ、それこそなのは嬉にしたいほどにね！」

ア 「あの士郎さんが認めるなんて……何者なのよ……」

桃 「もしもし？桃子よ、今から翡翠屋に来れるかしら？ええ、ちよつと会わせたい子がいるのよ、あらあらそんなことはないわ、とりあえず早く来てね 来ないと……わ・か・っ・て・る・わ・よ・ね？それじゃ後でね
良かったわねすずかちゃん、来てくれるって」

ア 「桃子さん……最後の方……脅迫みたいになってたのは気のせいですよね？……」

桃 「あらあら、そんなふうに見えてたのねえ……ちよつとアリサちゃんにはお仕置きが必要かしら？」

ア 「ひっ」

士 「こらこら、あんまりアリサちゃんを恐がらせないようにね、桃子は笑っていてこそ美しいのだから」

桃 「あら、士郎さんったらノノ今日は寝かせませんよ、うふふっ」

す 「（羨ましいなあ……）」

カランカラン

士 「いらっしやい……って君か」

「呼び付けておいてそれはないでしょう、土郎さん」

士 「いや、すまないね」

「まあいいですけど、それで？用事ってのは何です？」

桃 「その前にまず自己紹介からよ、初対面でしょ？」

京 「確かにそうだな、んじゃ初めましてお二人さん、俺の名前は神風京、気軽に京と呼んでくれ」

ア 「初めまして、あたしは……」

京 「知ってる、アリサ・バニングスに月村すずかだろ？」

す 「えっ？私たちのこと知ってるんですか？」

京 「知ってるも何も同じ学校だし、それに君たちは良くも悪くも目立っているからな」

ア 「なるほどね、納得したわ、でもあたし学校であんたを見たこと無いわよ？」

す 「私もありませんけど……」

京 「そりゃそうだろ、基本的に俺は屋上で寝てるか、ここにいる

かのどつちかだからな」

ア 「ここにいろつて・・・学校サボつてなにしてんのよ・・・」

京 「何つて本読んだり、ケーキ食べたり、士郎さんと修行したり・・・」

ア 「ちよ、士郎さんと修行つて！あんた何者よ？」

士 「それは私から説明しよう、京は昔近所に住んでいてね、たまに恭也達と一緒に修行をつけていたんだよ、だがこの子の子の両親の都合で引越すことになってね、それ以来彼とは連絡を取つてなかったのだが高校進学と共にこの街に帰つてきた所を偶然私が捕まえたのさ」

京 「士郎さん・・・話すぎだよ・・・」

士 「ん？別に京は気にしないだろ？」

京 「まあ気にしませんが」

士 「ならいいだろう」

京 「はああ」

ア 「まあそれはいいとして、あんたそんなんで単位とか日数は大丈夫なの？」

京 「ん、ああ問題無い、俺はあそのご理事長と知り合いでね、テストで点数さえ取れば進級させてくれるらしい」

俺苛められますって」

士 「君なら問題ないだろ、私や恭也より強いんだから」

す 「そ．．．そんなに強いんですか？」

ア 「そんなふうには見えないわね」

京 「そんなことしたら学校退学になっちゃうでしょ？」

士 「君がかい？」

京 「いえ、相手がです」

ア 「即答かい！つてか相手の心配してどうすんのよ．．．」

す 「あはは．．．いい人なんだよ．．．きつと」

士 「まあいいじゃないか、別に嫌いじゃないのだろう？」

京 「そりゃ初めて喋りましたから好きも嫌いもないでしょ」

士 「なら明日から一緒に登校するといい、そのほうが君も嬉しいだろ？」

す 「そ、そんなご迷惑ですよ！」

京 「別に嬉しくはないが迷惑でもないですよ、はわかりましたよ明日から一緒に登校すればいいんですね？」

ア 「嫌なら別に無理にとは言わないわよ？」

京 「嫌じゃないさ、何せこんな綺麗な人と一緒に登校出来るんだからね」

ア 「（こいつ・・・素だわ！間違いなく素で言ってるわ！！）」

す 「（綺麗って言われちゃったよ／＼どうしよう／＼）」

士 「（相変わらずの天然ジゴロだな・・・恭也にそっくりだ・・・）」

京 「？」

こんな感じで二人は出会ったのだった・・・

中編に続く・・・

(後書き)

処女作です！読みにくい、話の内容がわかりにくいなどの意見がありましたらどんどん言ってください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2801q/>

月村と神凧と夜の一族と 前編

2011年1月26日05時28分発行